活佛鄂博

哈布齊汗達坂と哈爾噶頂達坂

十四日、濕地の間を縫ひつゝ行くこと一里餘、此より石灰岩山の南麓に沿ふが故に、礫石稍々多きも、之を過ぐれは細砂を混ずる草地と爲り、道路は二條に岐る。左せば烏魯木齊に、右せば喀喇沙爾に抵るべし。即ち右して活佛鄂博に出づるや、附近に喇嘛の氈幕多し、此より草地を過ぎ、近く小著勒都斯河の右岸に沿ふて臺地を通過し、一上、一下、夕刻、扎克斯臺河の畔に達せり。行程約十里半。

一〇、縫針の釣魚

十五日霍特爾海に着す。行程約十三里。道路は砂礫又は濕地を交ゆ。此處より喀喇沙爾に往くには、二道の達坂ありて、其北方なるを哈布齊汗達坂と云ひ、坂路稍々緩漫なるも南方なるを哈爾噶頂達坂と稱して、石礫の惡路とす。本日の幕營地、小著勒都斯河の上流に濱し、河水清澄細魚潑剌、一々指點すべく、護衛の一騎士、試に縫針を燒き曲げて釣針に代へ麵粉を捻つて餌と爲し綸を垂るれば、豈料らんや忽ち數十尾を獲たり。魚は、其の形、鯊に似て味亦賞すべし。實に近來の美味且つ快事なりとす。蓋し蒙古族は魚類を食せず、其の斯の如きものは、畢竟漁撈の人なき爲めならんか。